

名称： バリアフリー教室 (富山短期大学 開催)  
日時： 令和2年10月29日 (木) 9:10~12:20  
場所： 富山短期大学 (富山県富山市)  
主催： 北陸信越運輸局 交通政策部 消費者行政・情報課  
協力： 富山短期大学、富山地方鉄道株式会社、  
北陸信越運輸局富山運輸支局

参加者： 富山短期大学生 91名

目的： 高齢者、障害者等が安心して日常生活を送れるためにはハード面だけでなく、一人ひとりの心のバリアを取り除き、その社会参加に積極的に協力する「心のバリアフリー」を理解してもらうため、富山短期大学でバリアフリー教室を開催。授業では、クラスを2つに分けて『講義・高齢者等疑似体験』と『車いす体験』を交代しながら行った。『講義・高齢者等疑似体験』では講義の部で「心のバリアフリー」とバリアフリーに関する法律の解説を行い、高齢者等疑似体験の部で白内障や足腰の衰えを疑似体験できる特殊ゴーグルや特殊サポーターを装着して、体験者と介助役を交代しながら階段の上り下りを行った。『車いす体験』では車いすの使い方と介助方法を説明し、車いすに乗る人と介助する人を交代しながらノンステップバスの乗降とバス周辺の自走及び介助体験を行った。

参加者の声： 『高齢者の方の視覚や聴覚が体験して特に大変だと感じた。今後はなるべく手助けしたいと思った。』

『富山で車いすバスに乗るとき、バスが満員や余裕がないときはなかなか乗れないのだと感じました。たださえバスの本数が少ないのに、乗れないとなるととても不便だと思いました。自分が降りれば乗れるようなときは、譲り合いの気持ちを持ち大切に、降りることも大切だと思いました。』『自分から声を掛けるのはとても勇気のいることなのでなかなか声を掛けられない。しかし今日の体験で手助けの必要性を実感したので、勇気を振り絞り声を掛けたいと思った。』『予想以上に大変であることを体を使って知ることができた。非常に有意義であったと思う。』『実体験できたからこそ、理解が深まりました。』『全体的に分かりやすく教えていただけてよかったです。とても参考になりました。』『車いすに乗っていると、小さな段差でも怖く感じました。』『車いすの利用者の方は誰かに助けてもらわないといけないことが分かったので、自分も積極的に手伝いたいと思いました。』

『車いす体験で、バスの乗降はしたことがなかったので、とても参考になりました。』

